

# 令和7年度第1回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会 緑整備部会議事録《要旨》

○日 時：令和7年12月22日（月）午前10時00分～午前12時00分

○場 所：万博記念公園事務所 会議室3, 4, 5

○出席委員：山本委員（部会長）、上田委員、大藪委員、高橋委員、平山委員（五十音順）

内容：以下の議事について、協議

1. 万博の森の育成について
2. 日本庭園の改修予定等について

## 1. 万博の森の育成について

事務局

資料3-1、資料3-2、資料3-3で、前回部会の振り返り、モデルエリアの施業経過と課題、アクションプランについて説明

【要約】

- （1）モデルエリアの施業方針の変更について
- （2）倒木対策について
- （3）アクションプランの項目について

事務局より、資料3で万博の森づくりについて説明。

委員)

コナラ・クヌギが優占するモデルエリア3-3-1と3-2の施業方針については、これまでの高木保全から全伐による萌芽更新に切り替えるとのことだったが、3-2の方は植林してきた稚樹が結構大きくなってきている。（高木の）伐採時に（これらの稚樹に影響を与えないよう）注意する必要がある。

また、萌芽更新する樹木の伐採の高さについては、地際とするのか、胸の高さとするのか。3-3-1でパターンを変えて伐採した結果を参考にすれば、管理がうまくいくのではないかと。

事務局)

3-3-1の台場クヌギについては、50cm、1メートル、1.5メートルという三段階の高さで実施している。1メートルや1.5メートルだと、高いところからたくさんの枝が出てくる。木自体が樹齢50年程であり、樹皮の縦割れやキノコの発生など、旺盛に枝が出てくる割には状態が良くない。

このことから、（伐採高さは）50cm程度の地面に近い高さが無難ではないかと思う。傾斜して生えている木もあり、高伐りして出た枝が大きくなると（倒伏の危険性が高まるなど）危なくなりそうなので、50cm程度の高さで考えている。

委員)

モデルエリアの伐採では伐採高さの高いところにもコフキタケが出ているので伐採高さはもっと低くてもいいのではないかと。高いと幹の片側が腐って片側だけ生きている

状態になり今後の幹折れが予想されるので、できる限り地際から伐って更新させていくのが良いのではないかと思います。

委員)

昨年（の審議で）は、（モデルエリア 3-13 や 3-30-1 のように）草刈りが大変なエリアでは高木を植栽したほうが良いという話があったが、（高木については）倒木の（危険性の）話があって、また（植栽した）ムクノキなどはうまく成長しているというお話もありました。このエリアと今の 3-2（、3-3-1）のエリアでは伐採（し、萌芽更新）するという、二つの異なる方針で行くという理解でよいか。

その二つの方針のエリアは、今後の毎木（調査）を行ったうえで管理方針を決めて、それぞれに適した方針をとる（必要がある）のかなと、状況を見ていると感じる。高木性の樹木を植栽する場合は、最初から育てないときちんと育てないが、密に植えすぎているような場所では伐採して萌芽させることも考えられる。アラカシも旺盛に萌芽する。

高木を育てるについては、土壌が浅いという課題があるので樹種選定が必要で、萌芽性の樹種も選択肢に入れていくのが良いのではないかと。

事務局)

落葉樹は被圧されているものが多いので、（常緑樹が多い林分を）落葉樹林にするなら、既存樹を残すよりは新しく植え替えた方が良くと思う。ブナ科樹木であれば旺盛に枝が生えてくるので、（多すぎるアラカシは）一旦伐採して小さくすることで競争力を下げ、成長を遅めにするという対応も使えると思う。

カシノナガキクイムシ（カシナガ）によるナラ枯れについては、クヌギやコナラが集まっているところは、園内にはそれほど多くなくて、モデルエリアの 3-3-1 や 3-2、及びその周辺あたりが萌芽更新が必要になってくるころだと考えている。また植栽後 50 年以上経っている樹なので、うまく萌芽更新できるかどうか分からないが、せっかく里山的景観を作っている場所なので、そのように管理していく林があってもいいと思っている。古い樹に混じって生えている若い個体をその場所で保護して、（将来的に）萌芽更新させるかたちで存続させるのもありかと思う。

委員)

周辺のアラカシについては伐採してもよいかなと思っている。私の大学の実習で萌芽更新を継続的に行っているが、クヌギなどは伐採後 5 年ぐらいでシイタケ原木とか薪にも利用可能な大きさに育ち、（残ったものは）全部チップパーで粉々にして（もとの場所に）撒いている。そうするとそこがまた土壌になっていく。（その場所は）ガレ場だが、根が結構深く張って、幹の太さも 7、8cm ぐらいになって、萌芽更新と伐採の循環を回すことができている。使わない木はチップパーで粉砕して撒いているので、省力的に（管理）出来ているように思う。

委員)

（モデルエリア 3-13 では）伐り下げを行っても樹冠があまり広がっていないということで、事務局が提案されているように、高木の苗を新たに植栽していく方向性は、やってみる価値があるのではないかと思います。その際に気になったこととしては、モデルエリアに既に植えられた中低木の苗は順調に生育しているかということだ。

事務局)

植えても枯れてしまう個体もいるが、それは想定内で、順調に育っていると言える。

委員)

植栽された中低木は落葉樹が中心か。

事務局)

中低木は落葉樹を植えている。

委員)

今後、高木を本植していく際に、中低木がきちんと生育できるように高木を管理することも合わせて考える必要があるので、植栽の密度、樹高の管理ということも、もしかしたら必要かもしれない。将来的には倒木の問題もあるので、どこまで高さを維持するのかということも、この会議の中で検討していくことかと少し考えている。あまり樹高を高くしすぎないことが必要。

事務局)

(高さの調節は) 難しいとは思いますが必要と思っている。現在のところ樹林地内は基本的には人が入り込めないようにしており、しばらく手入れが終わるまではそれをする予定。今考えているのは、園路沿いのある程度の面積はあまり大きな木にしないとか、中低木を中心に植えるなどだ。以前令和3、4年に園路沿いで(高木を) 伐採して現在は何も無いようなところもあるので、そういうところを中心に中低木を植えるという場所を作っていくというのも並行してやれたらと考えている。

委員)

そのあたりの考え方も、アクションプランにきちんと入れる必要があるように思う。

事務局)

ゾーニングという形で林班をつくっているところだが、新たに園路という項目も入れて、園路沿いの5m範囲にはこういう(中低木の) 樹種を入れるというような、新たにくりを作るといったことは、アクションプランに入れていくべきかと思っている。

委員)

伐り下げを行った樹だが、樹冠が広がっていないというよりは、これから広がりそうな形で樹形が回復しつつある。伐っていない方はひょろひょろと幹全体から萌芽枝が出ているような感じだが、伐った方は伐り口から適当な枝がたくさん出ているので、あと数年経てば樹冠は戻るかと思う。

その間、下草の管理のやりにくさで雑草が繁茂する可能性はあると思う。そうした中で、植樹した樹とどう更新していくのかというのが難しいところだ。剪定した樹も伐採という可能性が出てくるようであれば、より積極的な樹林管理を行い、今後の生育に危険がありそうなら伐採して後継樹を植栽すればよいと思う。当初から高林管理で高い木を生かして、その木が作る種から(後継樹を育てて) 自立したような樹林を目指すのであれば、現状でもいいのかと思わなくもない。そのあたりの、手の入れ方をどうしていくかというのは、2年間の実験期間があって、(アクションプランの) 策定が2028年ということなので、様子を見ていいのかなという感じはしている。

事務局)

例えばモデルエリア3-13では、中低木も植えてはいるけれど、結構広い範囲で高木の樹冠に覆われていないところがある。そういった場所の中ほどに、少し大きめの樹種、大きくなる樹を1、2本植えるなどはやってみてもいいのかなと思う。

委員)

あまり入れすぎると密度が高密度になってしまって、一本一本の樹冠面積が減ってしまうので、そのあたりはどこまで本当に積極的に行うのか、考えていく必要があると

思っている。

委員)

園路沿い５メートル程度の範囲に中低木を植える場合、下刈り（を続けることは）覚悟（している）という感じか？

事務局)

普通の道沿い部分の草刈りをしてもらっているので、その中でやってもらうことになる。

委員)

アクションプランの方で散開林、疎生林、密生林は今後も維持していく形になるが、今回のこのモデルエリアの施業を行うことで、どういうふうな見通しになるのか、景観的な部分が、まだ議論の俎上に上がっていない。モニタリングまで行かないとしても、どう見えてくるかというところは少し確認をしておいていただいた方が良い。それが上手くいくと、いろんなところでどういう見通しの森を作ろうとしたときに、どういう施業をするかということにつながってくると思う。

委員)

アクションプランにおいて「万博の森に求める姿」ということで目標を掲げるなど、長いスパンで考えていくことは勿論だが、当座やっていきたい実験的なこと、モニタリングでやってみたいといった試みを続けていける場所というのがこの森ならではの一つの姿でもあるかと思うので、短期的な試みをし続けていく場所という位置づけを、アクションプランの中でも描ければ、より継続的にモニタリングなどを進めていきやすくなると感じている。

まとめ

- (１) モデルエリアの施業方針について、落葉のブナ科が優先する第１期モデルエリア（３-２、３-３-１）はできるだけ地際での皆伐・萌芽更新とする。第２期モデルエリア（３-１３、３-３０-１）は既存樹の切り下げ後の生育状況を見て、必要に応じて高木の苗の植栽も試みるが、その際、植栽密度や樹種選定について十分検討する。
- (２) 来園者への影響の大きい園路沿いの樹木は高さを制限した手入れを行い、今後植栽する際は中低木を中心とするなど、倒木対策を検討する。
- (３) アクションプランの項目についてはおおむね了承を得たが、モデルエリアでの施業の結果や、上記（１）及び（２）の考え方なども盛り込んでいくことが提案された。

## ２．日本庭園の改修予定等について

事務局より、資料４で、日本庭園の改修予定等について説明

委員)

もみじの滝のモミジを更新したというのは、枯れてしまったということか？

事務局)

登録の直前くらいの時期に、もみじの銘木が二本枯れてしまった。もみじの滝を謳っ

ていることから、枯れた木を植え替えて更新した。

委員)

ヨルダンの砂を日本庭園に展示することになった経緯はどういったものか。

事務局)

2025 年大阪万博中に非常に好評だったということで、ヨルダン政府代表の方からぜひ大阪に寄贈したいとの意向があった。我々も展示場所を検討したが、先方のご意向として枯山水にしてほしい、砂と石を使って枯山水を作ってほしいと要望された。非常にさらさらした砂で、屋外に展示できないため、中央休憩所あたりが一番良いかなと考えている。政府代表の方も、中央休憩所から見える心字池と築山の景色が素晴らしいと好評いただいた。

委員)

せっかくなら皆が通る中央ゲートなどの方が良かったのではとも思った。だがそういう意向であれば、(砂と石が) 枯山水とはかけ離れているようにも思えるが、良いかと思う。(現地の砂や石と) あまり混じらないようにしていただければ。

事務局)

(ヨルダンの砂を) 目当てにおそらく沢山の方に来ていただけたらと思う。日本庭園は非常に素晴らしい庭園なので、我々も知っていただきたい、訪れていただきたいと考えている。

委員)

誘致する砂というのは面白い。触れるようにするということか。

事務局)

触るところまでは考えていない。

委員)

ヨルダンの砂があるとしたら、日本庭園へ見に来る人がいるかもしれない。

委員)

どんな形で設置するのか。

事務局)

まだ構想段階だが、ある程度の大きさのところに 15~20cm くらいの厚さに砂を敷いて、砂と合わせて頂戴している 6 千万年前の石を日本庭園で言う岩に見立てて、模様(砂文) はまだ分からないが、展示をして、沢山の人に見ていただければ。

委員)

改修一覧の最初にある全域での樹木の更新について、書類上の事だと思うが、左側の現状変更届を必要とする行為の例の中に伐採・植栽という項目があるのに対して、同じ表の右側の①の(植栽が)「届出不要」となっており、矛盾があるように感じてしまう。どういう条件の時に(伐採・植栽に関する現状変更届が) 不要となるのか、銘木以外のものは不要ということであれば、その旨の追記をお願いしたい。

事務局)

資料に追記する。

委員)

改修ではないが、既の実施された中で、周遊タクシーが非常に人気であったとのこと。具体的には普通のタクシーの乗用車か。

事務局)

パークタクシーといい、屋根はあるがサイドが開いた状態の 8 人乗りぐらいの小さな

乗り物があり、1 回あたり一人 800 円払っていただいて、運転手さんがついてガイドをする。両サイドがオープンになっているので非常に開放的で、景色や風を楽しみながら一周するようになっている。

委員)

トゥクトゥクや人力車といったイメージの、機動力のあるものと理解した。季節ごとに人気のあるものがあるといいですね。

委員)

国登録記念物として文化財登録されたということで、日本庭園の価値と重要性がもっと広まっていくと良いと思う。登録後の広報等様々な活動をしているとのことだが、来年の日本造園学会全国大会が大阪で開催されるので、何かしらそこで PR 等を行うことで日本庭園の価値を皆さんに知っていただく機会になるので、何かご検討いただければと思う。

事務局)

検討する。

(以上)